



電話会社のアンテナから撮った島の様子

南太平洋諸国支援プロジェクト

海面上昇は、珊瑚礁でできた海拔の低い島々に 様々な被害をもたらしています。

赤道直下の島で照りつける太陽からはクリスマスという名前は想像つきませんが、プロジェクトの舞台クリスマス島は、南太平洋に東西3,000kmに点在するキリバス共和国の島のひとつで、クリスマスイブに発見されたことからその名が付けられたと言われています。

このクリスマス島は珊瑚礁でできた島であり、内陸は至るところにラグーンがあり、当然山や川はありません。この島の人たちは、古くからレンズウォーターと呼ばれる井戸水を生活に使っています。温暖化の影響と言われる海面上昇によって、この井戸水に海水が混じり、飲料水として使えない状況になっており、島の人たちの生活に大きな影響を及ぼしています。

一方、この島の気候は年間を通して乾燥していましたが、気候変動の影響により降水量が急増しているということも分かりました。雨量の増加により、政府、島民ともに期待を込めて推進している塩田による天然塩の生産に、塩がなかなか乾かないなどの問題が起こり始めています。



クリスマス島

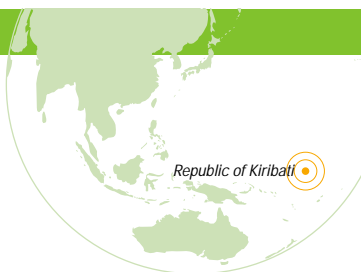


井戸水をくむ子どもたち

2003年度の活動と2004年度の計画

そこで、私たちは飲料水については降水を利用することを決め、2003年度は同島タバケア村に雨水貯蔵タンクを、天然塩の生産に対しては雨を防ぐ手立てはないかということに関係者と協議、検討を重ねた結果、天然塩生産のために動かすことのできるポリトレと海水を運ぶポンプを一式寄贈しました。

2004年度の計画では、海面上昇による海岸侵食の被害の大きいタラワ島の海岸線にマングローブを現地の方々と一緒に植林する計画です。



Republic of Kiribati

雨水貯蔵タンクの
設置も完了



ポリトレでの天然塩の生産



貴重な水を飲む少年